（様式３）

自 己 評 価 結 果 票　（青空）

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念である「人権の保障」「ノーマライゼーションの確立」「生きがいの創造」の具現化に向け取り組んでいる。その中でも「尊厳が保たれる自分らし生活」を独自の理念として取り組んでいる。	○	法人理念及び施設の独自の理念を施設内に掲示しているが、より深い理解につながるよう努めて行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日実施してるミーティングにおいて、ケアのあり方について理念と照らし合わしながら、検討している。また、研修会においても、理念の浸透を図るべく、理念を取り上げた研修を実施している。	○	職員の経験年数に限らず、理念は常に振り返りながら学習していく必要がある。今後も日々のミーティングや研修の場において、理念の検証を行い各職員への浸透を図りたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	当法人が発行している広報誌「生きる」の中で、施設での暮らしの様子を紹介させてもらいながら、そのひと人らしく生活してもらう事の取り組みを伝えている。	○	運営推進会議や地域のとの交流の場で理念の浸透を図って行きたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣地域の方々からの訪問や交流を積極的に受けいれている。また、近隣への買い物等の外出時には、積極的に挨拶をしたり会話をすることで隣近所との関係づくり努めている。	○	地区の老人会と交流会を持たせていただいており、それらの機会を通じて近隣との関係を作りに努めて行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区での催し物である、盆踊りや夏祭り等へ積極的に参加し、また、地区の老人会の方々からは定期的な訪問をいただいている。	○	老人会をはじめとする、地域の方々からの訪問交流をいただく中で、入居者とも顔見知りになりつつある。今後も交流を続け、地域の一員として生活していただけるよう支援して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々の訪問交流をいただく中で、実際にグループホームの生活に触れてもらいながら、認知症の理解や啓発につながるよう取り組んでいる。	○	グループホームでの生活の様子はまだまだ浸透していないと思う。我々のケアの実践をとおして、地域の方々へ認知症の理解やケアのあり方などを一緒になって考えて行きたい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去に実施した評価結果をもとに、改善を要する事項に関しては、改善に向け取り組んでいる。	○	評価を行なうことで、新たな気づきを発見する事がある。職員皆が取り組むことで、ひとり一人の気づきが全体の気づきの力となるよう取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催数は未だ少ないが、家族の思いや関係者からの意見を聴くことができた。	○	定期的な運営推進会議の開催に向け体制を整えていきたい。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町との行き来は少ない現状にあるが、運営推進会議を中心に積極的に町と連携を図って行きたい。	○	町の担当者との連携を密なものにするためにも、運営推進会議の充実を図りたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についての学習不足は否めないところである。今後学ぶ機会を多く持ち、理解を深めて行きたい。	○	権利擁護に関する研修等への積極的な参加など、学習の機会を多く持ているよう努めて行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	「身体拘束」についての研修を行ったことはあるが、「虐待」を捉えた研修等は行ってはいない。	○	「虐待」についても、法人理念である「人権の保障」と照らし合わせながら、あってはならないこととしての認識を深めるよう、全体での学習も検討して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書とあわせて説明を行なっている。疑問等があれば説明をして理解を図っている。	○	入居後も疑問や不安があれば都度応えるようにし、理解、納得につながるよう対応して行きたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は入居者から訴えられやすい存在であるよう、当法人のケア理念である「一言かけて笑顔をかけて」を実践し、日ごろの関わりから信頼関係を築けるように努力している。入居者から聞かれた意見はミーティング等で検討するようにしている。	○	外部へ意見を表せる機会は少ない現状でもあるため、今後検討して行きたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	１月に１度メッセージカードを届けており、日々の変化や暮らしの様子を伝えている。また、預り金の出入金状況については、４半期に１度明細を送付している。	○	家族が遠方におられる場合、訪問の機会を持ちにくくなることからも、暮らしの様子など分かりやすく伝えて行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設置している。また、気兼ねなく職員へ伝えてもらえるよう、家族等が訪問しやすい雰囲気や家族との関係作りに努めている。	○	家族から聞かれた意見、要望等はミーティングにて提起し、チームが家族の思いを共有しながら課題の解決に向け検討をしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングにて意見・提案を出し合い話し合いの場をもっている。また毎月１回、運営委員会を実施しており、現状の中から見えてくる課題等について検討している。	○	運営委員会での検討内容等や職員全体へ伝達している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出や受診の予定から勤務調整を図っており、柔軟な対応に努めている。	○	突発的な事情にも対応できるよう、充分な職員の確保を考えていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職により入居者の生活に不利益が発生しないよう、人員の確保に努めている。新職員の場合は、入居者のことを少しでも知る努力を促し、馴染みの関係に近づけるように配慮している。	○	離職等による職員の入れ替え少なからずあるなか、馴染みの職員となっている者が、フォローしながら対応していきたい。
5．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度職員研修会を実施しており、内容についても年間計画を立てて実施している。外部研修を積極的に勧め、学習の機会を作っている。	○	ミーティングを学びの場として活用していきたい。また、専門職として常に向上を目指し、与えられる研修だけでなく、自ら学ぶ姿勢を喚起していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会があれば交流の時を持ちたいと考えているが、現状としては少ないところである。	○	交流が定期的に行なえるようなネットワークづくりに努めて行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員親睦会での親睦旅行や忘年会を年間行事として実施している。	○	ストレスを溜めないよう自身の工夫に加え、上司となる者が職員の変化を見逃さないよう、なにか変化があったら相談・対応できる体制の充実を図りたい。また、親睦会以外での活動も考えて行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々のミーティングにて、主体的な意見を出せる雰囲気づくりに努めており、それらがケアに反映されたり、学習となることでやりがいにつながるようにしたい。	○	やりがいや向上心を自ら生みだせるよう、プロ意識と専門性の追求を喚起し続けたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前のアセスメントにて事前面接をおこない、認知症や心身の状態、本人の意向等を聞く機会を持っている。また入所後も「その人を知る」ことを大切に関わり、思いを引き出す機会を持っている。	○	入居前の事前面接では、入居者の困りごとや不安を的確に把握するよう努めると共に、入居後も思いに耳を傾けるよう努めて行きたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前のアセスメントでは、本人と家族を含めた事前面接をおこない、その中で意向等を聞く機会を持っている。	○	入居前の事前面接では、入居者および家族の困りごとや不安を的確に把握するよう努めると共に、入居後も思いに耳を傾けるよう努めて行きたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの等の相談を受けた場合、本人の心身状態や家族の状況を伺うようにしている。また、必要に応じて当法人内の事業であるデイサービスや特養等の情報も伝えるようにしている。	○	必要に応じて当法人内のサービスについての情報提供も行なっていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面接にてアセスメントした情報をもとに、本人や家族と相談しながら、共に住みやすい環境を整えるよう配慮している。利用前に施設内の見学をされる場合にも対応している。サービス開始時には、不安や混乱を招かないよう、意識的に寄り添うことで対応している。	○	環境の変化から認知症の進行を招くことをしっかりと認識し、入居して環境に慣れるまでの期間は、不安・混乱のないよう意識的に関わって行きたい。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の主体者は入居者であることを意識下に、職員は入居者の力を引き出す関わりに努めている。また職員は入居者を人生の先輩として敬いながら生活時間を共有する中で、入居者の生き様から学ぶところは多い。	○	生活の主体者は入居者である意識が薄れることのないよう、常に自己を振り返り点検確認して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	入居者の状況の変化をできるだけ家族へ伝えるようにしている。その中でケアの方向性を家族と相談することもある。	○	入居者の「生きる」を家族と共に考えて行けるよう、積極的に家族との連携や関係つくりに努力していきたい。
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれの家族関係において、そのままを受け入れることを基本にし、日々の様子をできるだけ細かく伝えることで入居者の様子を知ってもらうよう配慮している。	○	我々は様々な家族のあり方をそのまま受け入れ、サービスを利用してもらうことで家族とのつながりがより深まることを目標に努力したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物やドライブ等、外出の機会には、暮らし慣れた場所へ出向いたり、農作業に親しんでこられた方などには、季節によって田畑や山の様子を見に行くなど対応している。	○	今後も外出の機会をみながら、馴染みの場所へ出向いたり、友人との交流が図れるような対応に努めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者個々の生活史や性格を把握し、入居者同士の関係性についても常に把握に努めている。入居者間でトラブルとなることもあるが、職員が間に入り関係の調整を図りながら対応している。	○	機能低下や認知症の進行により、介助が必要となる方もあるが、他の入居者が偏見をもたれないよう、認知症についての説明をしていくなかで共に支えあう雰囲気作りに努めたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へかわった場合には、状況を伺いにいくことはある。家族との関係については、どちらかと言えば薄くなっているのが現状である。	○	サービス終了後も、家族の不安等に対応できるよう、連絡をとっていくようにしていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の主体者は入居者であることを意識下に、職員は入居者の力を引き出す関わりに努めている。認知症により、意思表示が困難な場合にも、その人になりかわり、代弁者として支援していくことに努めている。	○	個を大切にするケアの実践を目標とするなかで、「その人を知る」という努力は欠かせない。職員は常に謙虚な姿勢で知る努力を怠らないよう気をつけている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントにて得られた情報に加え、日々の暮らしの中で伺い知ることができた思いや意向等はミーティングにて情報としてあげている。	○	伺い知ることができた思い、意向はミーティングの場にて職員間の共通認識を図っていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態の変化における気づきは、毎日のミーティングにて情報としてあげ、共通認識を図るよう努めている。ひとり一人の心身の状態を的確に把握したうえで、それぞれの方に応じた一日の過ごし方に配慮している。	○	認知症の状態や心身状態の変化を見逃すことのないようし、変化が見られた際には素早い対応につ努めたい。
2．より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居時のプランについては、事前面接時のアセスメントと本人家族の意向を捉え立案している。プランの変更にあたっては、日々の様子から課題を捉え立案している。今後、家族との話し合いや意見の反映を充実させていきたい。	○	プランの立案に向けて、本人や家族との相談する機会を多く持てるようにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については、６ヶ月ごとに定期の見直しをおこなっている。また、心身の状態に変化が見られた際には、随時のプラン変更をおこなっている。	○	その時々の状態に即した介護計画となるよう、必要に応じて随時立案をしていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や気づきは、ミーティングにて情報をあげるよう努めている。また、ケース記録として入居者個々に記録をまとめ、アセスメントからモニタリングを実施しており、その結果を介護計画に活かしている。	○	職員ひとり一人の気づきを出し合うことで、全体の気づきとし情報を共有しながら、介護計画作成に活かして行きたい。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所はデイサービスも併設していることから、レクリエーションへの参加やデイ利用者との交流も図っている。また、入居者の心身の状況によって、デイサービスの浴室を活用することもあった。	○	併設しているデイサービスも上手く活用しながら、様々なニーズに対応できるよう努力したい。
4．より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアを積極的に受け入れており、清掃活動や入居者のとの交流の時を持ってもらっている。また、近隣の学校や保育所からは子供さんとの交流の機会も持たしてもらっている。防災訓練時には消防署から職員の派遣を依頼し実施している。	○	併設事業所であるデイサービスでは近隣の中学校より「トライやるウイーク」を受け入れたり、高校からは就業体験の受け入れを行なっている。グループホームでも要望があれば応えて行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	以前、長期的な入院後、当法人の特養でショートサービスを利用してもらった後、当施設へ戻った入居者があり、その際には特養のケアマネやスタッフとの連絡調整を行なった。	○	当法人内の事業所との連絡調整を密にすると共に、他事業所との連絡調整も行えるよう連携を図って行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議以外での地域包括センターとの連携は図れていないのが現状である。		運営推進会議の開催をはじめ、今後地域包括支援センターとの連携を図って行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の病院への診察を継続している。定期的な受診に加え、状態の変化などが見られた際には随時の受診を行なっている。協力医療機関へ病院を代わる際には、家族と相談し納得が得られてから行なっている。	○	医療機関との連携を図り、グループホームでの暮らしの可能性を広げて行きたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関することも協力医療機関の医師やかかりつけ医に相談しアドバイス受けることがある。	○	地域の医療体制上、認知症の専門医と直接的な連携は図りにくいところにあるが、主治医の診察を要に必要に応じて専門医等へつなげて行きたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護員を配置し、入居者の健康状態の把握に努め、定期の受診等で医療機関へつなげている。また、２ヶ月に１度歯科衛生士による「口腔相談」を実施しており、口腔衛生についてのアドバイスや介助に対する助言もしてもらっている。	○	医療面や口腔機能面での更なる連携を図りながら、日常の健康管理に努めたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院に至ったときには、随時病院へ出向き状態の把握に努め、病院関係者からも情報を提供してもらい、退院後の対応についても検討している。	○	退院後、スムーズに対応できるよ都度の状態について把握に努めて行きたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点で終末ケアに対応できる体制は整っていないが、本人や家族の意向を尊重させてもらった上で、重度化された場合でも可能な限り対応していけるような体制を作りたいと考えている。	○	心身の状態が重度化したことを理由に当ホームを出なくてはならないような「通過施設」にはしたくない。重度化しても可能な限り馴染みの生活を継続できるように、まずは全職員がその思いを共有し、対応できる体制や技術・知識の向上を図って行きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	可能な限り馴染みの生活が継続できるよう、事業所として「できること」の幅を広げて行きたいと考える。そのひとつに今年度より看護員を配置し、専門的な視点から入居者の健康状態の把握を図ったところにある。	○	可能な限りグループホームでの生活が継続できる体制の確立に向け、課題の改善や工夫のなかで課題を克服して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退居される際には、本人、家族や担当ケアマネと情報交換しながら、入居の時期やタイミングを検討している。	○	各関係機関と情報間を密に対応することで、入退居時の不安や混乱を防いで行きたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いについては、人生の先輩として入居者を敬う言葉使いの徹底を図るところにある。言葉の乱れが態度の乱れにつながらないよう、常に留意しあっている。また、居室は一軒の家として出入室の際には挨拶をするようにしている。	○	常に尊敬の念を持った言葉使いに留意して行きたい。また、言葉使いについては乱れやすい面を持っていることを自覚し、言葉の乱れが態度の乱れにならないように職員間で注意し合って行きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の思いや希望が気兼ねや遠慮により表出できないことがないよう、職員は訴えられやすい存在でなくてはならない。日々の関わりの中で信頼関係を築き「あてになる職員」を目指している。ひとり一人の認知症の状態に応じた説明や関わりの中で自己決定ができるよう対応したり、時には入居者の代弁者として対応することもある。	○	職員が入居者の代弁者となり対応する場合、入居者の人権に充分配慮し失礼のない対応に努めて行きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課は設定しておらず、その日、その時の入居者の心身の状況や希望を捉えたうえでの過ごし方に配慮している。生活の主体は入居者であることを常に確認し合っている。	○	入居者からの希望や訴えを待つばかりではなく、入居者の主体性を引き出せる関わりにも努めたい。運動不足の方には散歩を勧める等、その気になれる支援も大切にしていきたい。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	当施設の隣に理容室があり、男性の入居者はそこで散髪を行なっている。また、女性の入居者の近所の美容室へ出掛けカットや毛染めを行なっている。服装に関しては乱れや汚れがないよう気をつけている。	○	美容室へ出掛けることが困難となっている入居者は美容師の方に来てもらいカットしてもらっている。美容室への外出が可能な方は、できるかぎり外出してもらえるよう支援していきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「食事」の中にも、買い出し・調理・食す・後片付け等様々な行程のなかで入居者の状態に応じて取り組める部分を勧め行なっており、後片付けが役割となっている入居者もある。	○	食事の献立には野菜や旬のものを多く取り入れ、昔懐かしいメニューなども増やして行きたい。
55	○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ひとり一人の嗜好を把握し個別対応に努めている。個人で菓子や果物等を持っておられる方もあり、古くならないよう職員が確認をさせてもらうこともある。	○	個々の嗜好を大切にし、個別の対応に努めて行きたい。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	当法人のケア理念に「排泄の自立」を掲げている。排泄行為は人間の尊厳に関わる部分であることを充分に認識した上で、可能な限り排泄の自立が叶うよう取り組んでいる。ひとり一人の排泄パターンを把握するため、チェック表に記録している。	○	可能な限りトイレで座って排泄が望めることを目標にしながら、排泄の自立には常にこだわって行きたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴のあり方は、１日おきに入浴することを基本としているが。毎日を希望する方は毎日入浴をされている方もある。	○	入浴の時間帯については１５時３０分からとなっているが、それ以外の時間帯での入浴対応の可能性についても考えて行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中を活動的に過ごしてもらうことで夜間の安眠につながるよう日中には作業等や外出等を勧め、できるだけ体を動かす機会を多く作っている。また、日中においても、それぞれの体力に応じて、昼食後等には横になれるよう対応している。	○	夜間の不眠が見られた場合でも、可能限り眠剤は使用しないようにと考えている。日中を活動的に過ごせるよう支援したり、認知症からの不安混乱を原因とする不眠の場合は、訴えを充分に聞かせてもらいながら対応することで安心を図り、安眠につなげて行きたい。
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や食後の後片付けが役割となっている方があり、役割があることで自身の存在感を感じておられるようである。また、地域の行事への積極的な参加や散歩やドライブ等の外出の機会を多く持っている。	○	自身の役割があることで、やりがいにもなり自身の存在を感じることができると考える。それぞれの方に役割を見い出す関わりを続けると共に、ねぎらいの言葉や感謝の言葉をかけて継続できるよう支援して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については事務所で管理している方が多い。金銭管理の代行をしている方には４半期毎に出納状況を報告している。また、金銭を預っている方であっても、外出の際には金銭を手渡し、そのお金で買い物等を行なえるように支援している。	○	自分のお金で自分の好きなものを購入できることも、ＱＯＬの向上と考える。機会を見ては勧めて行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域での催し物等へは積極的に出掛け参加している。また、畑での農作業に親しんでこられた方には畑での作業を勧めるなど、外で過ごす時間を多く持っている。	○	季節によって暑さや寒さから、外出のしやすい時期や外出しにくい時もみられるが、対応の工夫の中で今以上に外へ出る機会を多く持って行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の催しである、花見、夏祭り、紅葉見物や芝居見物や外食などを機会を見ては、希望を伺いながら出掛けている。また、家族と共に外出される方もある。	○	都度、希望を伺いながら対応すると共に、外出への意欲が沸くような勧め方も支援のひとつとして努力していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等、希望を伺いながら勧めているが、電話や手紙の希望を伺う回数は少ない。	○	電話や手紙の希望を待つだけではなく、それらを勧める話しをしていくことで、新たなニーズを捉えて対応していけるようにしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者はいつでも訪問いただける体制にある。家族の訪問時には居室にてゆっくりと過ごしていただけるよう配慮し、日頃の暮らしの様子についても伝えている。また職員は訪問者に対しては気持ちの良い挨拶で迎えることで、気軽に足を運んでもらえるよう努めている。	○	訪問される方々には気持ちよく過ごしていただけるよう配慮することで気軽に立ち寄れるような雰囲気づくりに努めて行きたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人間介護に身体拘束は存在しないものと考え、拘束のない介護の実践している。職員研修等で身体拘束ついて取り上げ、人権侵害であることの理解を深める取り組みを行なっている。	○	身体拘束は人権侵害であることの理解を深めるていくため、繰り返し学習し人権感覚を磨いていく努力を怠らないようにしたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は玄関・エレベーターの施錠しているが、それ以外の時間帯は施錠していない。日中は開放しており自らの思いの中で外へ出て行こうとされる方には、鍵をかけるのではなく職員が行動を共にして対応している。また、鍵をかけて行動を抑制することで余計に不穏、興奮等につながることを職員間で理解している。	○	鍵をかけないのが当たり前として対応しているところであるが、職員は入居者の動きを常に把握しておかなくてはならない役割にある。常に目配りし、入居者の位置関係を把握すると共に、目の届きにくい場合においても、今どこに、誰が位置しているのかを頭の中で把握できるよう、心のアンテナを張るように努めていきたい。
67	○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は常に職員が入居者の状態を把握できるよう、職員間での連携を図り、時には別ユニットの応援も得ながら対応している。夜間は排泄介助に関わりながら状態把握したり、居室へ伺いながら確認をしているが、施錠される方の確認については居室へ伺ってまでの確認は行っていない状況にある。	○	日中からの状態を日勤者から引継ぎ、夜間の状態把握に努めて行きたい。また、夜間に施錠される方への対応について検討していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物はキッチンの目に触れない位置に保管しており、現時点で使われる入居者はないがライターなどの火の元は職員室にて保管している。	○	調理の際には、刃物の認識が得られる方やそうでない方もおられる為、使用する際の置き場所に充分留意して行きたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息等、緊急時の対応については、マニュアルを整備しており、研修でも取り上げている。薬はひとり一人、服用時間ごとに分けてケースに入れており誤薬を防いでいる。	○	マニュアルは整備しているが、繰り返し確認していくことで、素早く対応できるようにしておきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応について、マニュアルを整備しており、事故の発生時には事故に至った経緯を再確認し、原因を分析することで再発予防に向け取り組んでいる。吸引機や酸素の使用方法について研修で取り上げ実施している。	○	緊急時でも落ち着いて対応できるよう、繰り返し確認し、定期的な訓練も実施したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に２度、消防署から職員を派遣していただき、防災訓練を実施している。昼夜を想定した訓練を実施しており、避難訓練は参加が可能な入居者には参加してもらっている。	○	火災を想定した訓練を実施しているが、その他の災害時の訓練は行っていないため、検討して行きたい。また、近隣との協力関係を築きあげたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	体調の変化があった際には、家族へ連絡し経緯について説明をしている。また、月に1度生活の様子を文書で伝えており、心身機能の変化についても家族と共有しながら、今後の対応についても相談している。	○	暮らしの場として、馴染みの関係、環境での生活が継続できるよう本人、家族の意向も伺いながら、都度、話し合いの場を持って行きたい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の変化や気づきは毎日のミーティングの場にて、職員間で情報を共有しており、内容について連絡帳に記録することでミーティングに参加していない職員も把握できるようにしている。また、週に約２回、看護員を配置し専門的視点から、体調面を把握するようにしている。	○	状態変化を見逃さないようにし、状態変化が見られた際には、受診へつなげるなど、早期の対応を図ることで状態が悪化しないようにしていきたい。
74	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬の内容については、ファイルに綴じていつでも確認できるようにしている。特に服薬の変更や追加があれば状態の変化に留意し様子を見るようにしている。	○	内服薬等の変更があった際には、全身状態の把握に努め、変化が見られれば医師へつなげていくようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状況を把握している。また、外出することで運動の機会を持ったり、施設内でも体操の機会を持っている。	○	食事時には水分を充分に摂ってもらうよう関わっている。食事内容について野菜を多く取り入れ、繊維質の多い食事に配慮して行きたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後までは行なっていないが、夕食後には義歯洗浄、歯磨き等の関わりを持っている。また、２ヶ月に１度、歯科衛生士の派遣を受け口腔内の検診や介助時のアドバイス等をしてもらっている。	○	歯科衛生士の助言、アドバイス等を活かしていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量については常に把握に努めていおり、摂取量については日誌等の記録へ残すようにしている。食事量が減少してきた方には、高カロリーのゼリー等を勧めることもある。	○	栄養の偏りのないメニューに配慮して行きたい。ひとり一人の状態をしっかりと把握し、その方に応じた食事提供が行なえるよう努めて行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染症対応マニュアルを作成しており、発生時、または予防として対応に努めている。	○	ノロウイルスやインフルエンザの流行時期には、予防に努めると共に体調の変化に留意し、変化、サインを見逃さないようにしたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週に１度（水曜日）は調理器具や食器類をハイターにて消毒を行い、冷蔵庫の掃除、整理を実施している。またノロウイルスの流行時や必要に応じて消毒の回数を増やし対応している。食材は使い切るようにし、買い出しも２、３日分の食材を購入するようにし、新鮮なものを提供できるように努めている。	○	居室に食物を置かれている方もあるので、失礼にならないよう配慮しながら居室の確認も忘れないようにしたい。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に入居者が植えた花を飾るなど、親しみやすい空間となるよう配慮している。靴の履き替えがしやすいよう椅子を設置している。エレベーター入り口にも花を飾り対応している。	○	季節に合った花を植え、季節感を感じていただけるように配慮して行きたい。灯りに虫がよって汚れることがあるため、都度の清掃を行なって行きたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	構造上、リビングキッチンには西日が当たりやすく、光を多く取り入れることができる。必要以上の光とならないように、カーテンで調整をしている。食事中には食堂とローカとの間にのれんを下ろし、食事へ集中できる空間を作っている。季節の花や植物を配置し、季節感を感じられるよう配慮している。	○	季節の催しや行事に関連した装飾や、花や植物を配置し季節感を感じられるよう努めていきたい。職員の関わりも入居者にとっての環境であり、職員の言動、会話のトーン、仕草など失礼のないよう留意して行きたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんが集う場となっている食堂から少し離れた位置に、数人で過ごせるよう畳台を配置している。また、共用のスペースとして畳の部屋があり、時には横になって休まれる方もある。	○	畳の部屋が充分に活用できていないところもあるため工夫して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはこれまで使い慣れた品々を持ち込んでもらってよいことを家族に伝えており、仏壇やコタツ、テレビ、冷蔵庫等持ち込んでおられる入居者もある。	○	入居者によっては持ち込まれるものが少ない方もあり、家族との相談しながら工夫して行きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除を行なう際には換気を行ない、空気の入れ替えを行なっている。また、室温計、湿度計を設置し空調による温度、湿度調整を行っている。使用後の紙オシメ等は早目に処分し、臭いが出ないように対応している。	○	冬場には加湿器を使用しているが、水の補充を含め確実な使用を徹底していきたい。
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカや浴室、トイレ内には手摺を設置しており、それぞれの行為を起こしやすい環境つくりに配慮している。また、ローカ中央には腰を下ろせる空間を作っている。エレベーター前には椅子を設置し、乗り降りの際には使用してもらっている。	○	浴槽への出入りがしにくくなっている入居者もあるため、シャワーチェアを活用してスムーズな行為ができるよう対応をしていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には表札を設置しており、場所的失見当による混乱を防ぐよう配慮している。トイレの目印も見えやすい位置に設置している。洗濯後の自分の衣類が心配になる方には、自室に洗濯物を干すことで、混乱や不安を取り除くよう対応している。	○	入居者の心身の状況にも変化が見られるところである。その都度の状態の応じた対応のあり方を検討して行きたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天候の良い日には玄関先のスペースにて外気浴を行なえるよう、長いすを用意している。施設近くには畑を作っており、畑での作業に熱心に取り組まれる方もある。	○	畑への道が整備されいない状況であるため工夫して行きたい。出て見たいと思えるよう、意欲を引き出す関わりにも努めて行きたい。

（　　部分は第三者評価との共通評価項目です　）

Ⅴ. サービスの成果に関する項目 (青空)

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない	個を知る努力を重ねていくことで,それぞれの願いや意向を知るところにある。日ごろの関りから築き上げた信頼関係を基盤に入居者の思いに少しでも近づくよう努力をしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	日課に追われることなく、それぞれの生活ペースにあわせて、のんびりと過ごす時間も持てている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	それぞれの生活のペースで過ごされている。人中で過ごされる方や時には一人で過ごされる方もあるが、一人で閉じこもりがちになる方には、気の合う入居者と買い物や外出へ誘うなどして対応している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	職員と馴染みの関係も築けてきているようであり、笑顔も多く見られている。認知症により不穏になる方もあるが、馴染みの関係が安心感につながり、落ち着いていただけるように取り組んでいる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	希望を伺えば可能な限り出掛けていただくように対応している。入居者の心身の状態によって行きたいと思われるところへ出掛けることが困難な場合もあり、散歩や外気浴等での対応になることもある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	定期受診にて医師に診てもらい、薬の処方等をしてもらっており、また状態の変化が見られた際には随時早めの受診につなげることで対応している。非常勤だが看護員も配置し日常の健康状態の把握に努めている。
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	認知症により、精神的に落ち着かれないこともあるが、個別でじっくりと関わる時間を持つことで安心されることも多く見られている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない	家族が遠方におられる入居者もあることから、訪問の機会は入居者によって異なるが、訪問時には積極的に生活の様子を伝え、家族との関係作りに努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	入居者にもよるが、家族や親戚の訪問は定期的に見られている。知人や友人または地域の方の訪問もあるが、比較的少ないのが現状である。

項　　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	開催の回数が少ないことから、運営推進会議を通しての広がりは余り望めていない。
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない	それぞれで介護の仕事にやりがいをもって頑張っている。介護の仕事は努力した成果がすぐに目に見える形では現れにくこともあるため、忍耐を要する時もあるが、乗り越えた時の達成感を糧に努力して行きたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	入居者同士での馴染みの関係や職員や環境との馴染みの関係も築けてきているようである。入居者間でのトラブルが発生してしまうこともあるが、職員が間に入って対応するように努めている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない	毎月メッセージカードを送り、生活の様子を伝える中で満足していただけいると思うが、家族の意向を伺う機会も少ないところであり、今後そのような機会を増やして行きたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当施設は平成１６年４月１日に開設し今に至る。この間、当法人の基本理念である「人権の保障」「ノーマライゼーションの確立」「生きがいの創造」をケアの目標、判断基準とし取り組んできた。基本理念に裏打ちされたケアの実践に努め、入居者一人ひとりが主体的に生活を送ることができるよう、時に見守り、時に励ましながら共に行動する中で、主体性を引き出せるようその関わりに努めている。
ケアの実践においては「その人を知る」ことを大切に関わっている。個を知る努力は「その人らしさ」の輝きを更に高める重要な関わりであることを肝に銘じ、個々が主体的に逞しく生きていくことのへの関わりに努めている。
日々の暮らしは、刺激ある活動的な時間を過ごせるよう努めており、暮らしの中に「心が躍る一瞬一瞬」が存在するような支援を目標としている。また、認知症の進行から徐々に心身の状態に変化を見る方もあるが、それぞれの状態に応じたケアのあり方を追求しながら、むらおかの空での暮らしの可能性を広げられるよう、その関わりに努めている。

（様式３）

自 己 評 価 結 果 票　（大空）

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念である「人権の保障」「ノーマライゼーションの確立」「生きがいの創造」の具現化に向け取り組んでいる。その中でも「尊厳が保たれる自分らし生活」を独自の理念として取り組んでいる。	○	法人理念及び施設の独自の理念を施設内に掲示しているが、より深い理解につながるよう努めて行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日実施してるミーティングにおいて、ケアのあり方について理念と照らし合わしながら、検討している。また、研修会においても、理念の浸透を図るべく、理念を取り上げた研修を実施している。	○	職員の経験年数に限らず、理念は常に振り返りながら学習していく必要がある。今後も日々のミーティングや研修の場において、理念の検証を行い各職員への浸透を図りたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	当法人が発行している広報誌「生きる」の中で、施設での暮らしの様子を紹介させてもらいながら、そのひと人らしく生活してもらう事の取り組みを伝えている。	○	運営推進会議や地域のとの交流の場で理念の浸透を図って行きたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣地域の方々からの訪問や交流を積極的に受けいれている。また、近隣への買い物等の外出時には、積極的に挨拶をしたり会話をすることで隣近所との関係づくり努めている。	○	地区の老人会と交流会を持たせていただいており、それらの機会を通じて近隣との関係を作りに努めて行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区での催し物である、盆踊りや夏祭り等へ積極的に参加し、また、地区の老人会の方々からは定期的な訪問をいただいている。	○	老人会をはじめとする、地域の方々からの訪問交流をいただく中で、入居者とも顔見知りになりつつある。今後も交流を続け、地域の一員として生活していただけるよう支援して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々の訪問交流をいただく中で、実際にグループホームの生活に触れてもらいながら、認知症の理解や啓発につながるよう取り組んでいる。	○	グループホームでの生活の様子はまだまだ浸透していないと思う。我々のケアの実践をとおして、地域の方々へ認知症の理解やケアのあり方などを一緒になって考えて行きたい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去に実施した評価結果をもとに、改善を要する事項に関しては、改善に向け取り組んでいる。	○	評価を行なうことで、新たな気づきを発見する事がある。職員皆が取り組むことで、ひとり一人の気づきが全体の気づきの力となるよう取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催数は未だ少ないが、家族の思いや関係者からの意見を聴くことができた。	○	定期的な運営推進会議の開催に向け体制を整えていきたい。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町との行き来は少ない現状にあるが、運営推進会議を中心に積極的に町と連携を図って行きたい。	○	町の担当者との連携を密なものにするためにも、運営推進会議の充実を図りたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についての学習不足は否めないところである。今後学ぶ機会を多く持ち、理解を深めて行きたい。	○	権利擁護に関する研修等への積極的な参加など、学習の機会を多く持ているよう努めて行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	「身体拘束」についての研修を行ったことはあるが、「虐待」を捉えた研修等は行ってはいない。	○	「虐待」についても、法人理念である「人権の保障」と照らし合わせながら、あってはならないこととしての認識を深めるよう、全体での学習も検討して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書とあわせて説明を行なっている。疑問等があれば説明をして理解を図っている。	○	入居後も疑問や不安があれば都度応えるようにし、理解、納得につながるよう対応して行きたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は入居者から訴えられやすい存在であるよう、当法人のケア理念である「一言かけて笑顔をかけて」を実践し、日ごろの関わりから信頼関係を築けるように努力している。入居者から聞かれた意見はミーティング等で検討するようにしている。	○	外部へ意見を表せる機会は少ない現状でもあるため、今後検討して行きたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	１月に１度メッセージカードを届けており、日々の変化や暮らしの様子を伝えている。また、預り金の出入金状況については、４半期に１度明細を送付している。	○	家族が遠方におられる場合、訪問の機会を持ちにくくなることからも、暮らしの様子など分かりやすく伝えて行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設置している。また、気兼ねなく職員へ伝えてもらえるよう、家族等が訪問しやすい雰囲気や家族との関係作りに努めている。	○	家族から聞かれた意見、要望等はミーティングにて提起し、チームが家族の思いを共有しながら課題の解決に向け検討をしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングにて意見・提案を出し合い話し合いの場をもっている。また毎月１回、運営委員会を実施しており、現状の中から見えてくる課題等について検討している。	○	運営委員会での検討内容等や職員全体へ伝達している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出や受診の予定から勤務調整を図っており、柔軟な対応に努めている。	○	突発的な事情にも対応できるよう、充分な職員の確保を考えていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職により入居者の生活に不利益が発生しないよう、人員の確保に努めている。新職員の場合は、入居者のことを少しでも知る努力を促し、馴染みの関係に近づけるように配慮している。	○	離職等による職員の入れ替え少なからずあるなか、馴染みの職員となっている者が、フォローしながら対応していきたい。
5．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度職員研修会を実施しており、内容についても年間計画を立てて実施している。外部研修を積極的に勧め、学習の機会を作っている。	○	ミーティングを学びの場として活用していきたい。また、専門職として常に向上を目指し、与えられる研修だけでなく、自ら学ぶ姿勢を喚起していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会があれば交流の時を持ちたいと考えているが、現状としては少ないところである。	○	交流が定期的に行なえるようなネットワークづくりに努めて行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員親睦会での親睦旅行や忘年会を年間行事として実施している。	○	ストレスを溜めないよう自身の工夫に加え、上司となる者が職員の変化を見逃さないよう、なにか変化があったら相談・対応できる体制の充実を図りたい。また、親睦会以外での活動も考えて行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々のミーティングにて、主体的な意見を出せる雰囲気づくりに努めており、それらがケアに反映されたり、学習となることでやりがいにつながるようにしたい。	○	やりがいや向上心を自ら生みだせるよう、プロ意識と専門性の追求を喚起し続けたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前のアセスメントにて事前面接をおこない、認知症や心身の状態、本人の意向等を聞く機会を持っている。また入所後も「その人を知る」ことを大切に関わり、思いを引き出す機会を持っている。	○	入居前の事前面接では、入居者の困りごとや不安を的確に把握するよう努めると共に、入居後も思いに耳を傾けるよう努めて行きたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前のアセスメントでは、本人と家族を含めた事前面接をおこない、その中で意向等を聞く機会を持っている。	○	入居前の事前面接では、入居者および家族の困りごとや不安を的確に把握するよう努めると共に、入居後も思いに耳を傾けるよう努めて行きたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの等の相談を受けた場合、本人の心身状態や家族の状況を伺うようにしている。また、必要に応じて当法人内の事業であるデイサービスや特養等の情報も伝えるようにしている。	○	必要に応じて当法人内のサービスについての情報提供も行なっていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面接にてアセスメントした情報をもとに、本人や家族と相談しながら、共に住みやすい環境を整えるよう配慮している。利用前に施設内の見学をされる場合にも対応している。サービス開始時には、不安や混乱を招かないよう、意識的に寄り添うことで対応している。	○	環境の変化から認知症の進行を招くことをしっかりと認識し、入居して環境に慣れるまでの期間は、不安・混乱のないよう意識的に関わって行きたい。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の主体者は入居者であることを意識下に、職員は入居者の力を引き出す関わりに努めている。また職員は入居者を人生の先輩として敬いながら生活時間を共有する中で、入居者の生き様から学ぶところは多い。	○	生活の主体者は入居者である意識が薄れることのないよう、常に自己を振り返り点検確認して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	入居者の状況の変化をできるだけ家族へ伝えるようにしている。その中でケアの方向性を家族と相談することもある。	○	入居者の「生きる」を家族と共に考えて行けるよう、積極的に家族との連携や関係つくりに努力していきたい。
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれの家族関係において、そのままを受け入れることを基本にし、日々の様子をできるだけ細かく伝えることで入居者の様子を知ってもらうよう配慮している。	○	我々は様々な家族のあり方をそのまま受け入れ、サービスを利用してもらうことで家族とのつながりがより深まることを目標に努力したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物やドライブ等、外出の機会には、暮らし慣れた場所へ出向いたり、農作業に親しんでこられた方などには、季節によって田畑や山の様子を見に行くなど対応している。	○	今後も外出の機会をみながら、馴染みの場所へ出向いたり、友人との交流が図れるような対応に努めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者個々の生活史や性格を把握し、入居者同士の関係性についても常に把握に努めている。入居者間でトラブルとなることもあるが、職員が間に入り関係の調整を図りながら対応している。	○	機能低下や認知症の進行により、介助が必要となる方もあるが、他の入居者が偏見をもたれないよう、認知症についての説明をしていくなかで共に支えあう雰囲気作りに努めたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へかわった場合には、状況を伺いにいくことはある。家族との関係については、どちらかと言えば薄くなっているのが現状である。	○	サービス終了後も、家族の不安等に対応できるよう、連絡をとっていくようにしていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の主体者は入居者であることを意識下に、職員は入居者の力を引き出す関わりに努めている。認知症により、意思表示が困難な場合にも、その人になりかわり、代弁者として支援していくことに努めている。	○	個を大切にするケアの実践を目標とするなかで、「その人を知る」という努力は欠かせない。職員は常に謙虚な姿勢で知る努力を怠らないよう気をつけている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントにて得られた情報に加え、日々の暮らしの中で伺い知ることができた思いや意向等はミーティングにて情報としてあげている。	○	伺い知ることができた思い、意向はミーティングの場にて職員間の共通認識を図っていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態の変化における気づきは、毎日のミーティングにて情報としてあげ、共通認識を図るよう努めている。ひとり一人の心身の状態を的確に把握したうえで、それぞれの方に応じた一日の過ごし方に配慮している。	○	認知症の状態や心身状態の変化を見逃すことのないようし、変化が見られた際には素早い対応につ努めたい。
2．より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居時のプランについては、事前面接時のアセスメントと本人家族の意向を捉え立案している。プランの変更にあたっては、日々の様子から課題を捉え立案している。今後、家族との話し合いや意見の反映を充実させていきたい。	○	プランの立案に向けて、本人や家族との相談する機会を多く持てるようにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については、６ヶ月ごとに定期の見直しをおこなっている。また、心身の状態に変化が見られた際には、随時のプラン変更をおこなっている。	○	その時々の状態に即した介護計画となるよう、必要に応じて随時立案をしていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や気づきは、ミーティングにて情報をあげるよう努めている。また、ケース記録として入居者個々に記録をまとめ、アセスメントからモニタリングを実施しており、その結果を介護計画に活かしている。	○	職員ひとり一人の気づきを出し合うことで、全体の気づきとし情報を共有しながら、介護計画作成に活かして行きたい。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所はデイサービスも併設していることから、レクリエーションへの参加やデイ利用者との交流も図っている。また、入居者の心身の状況によって、デイサービスの浴室を活用することもあった。	○	併設しているデイサービスも上手く活用しながら、様々なニーズに対応できるよう努力したい。
4．より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアを積極的に受け入れており、清掃活動や入居者のとの交流の時を持ってもらっている。また、近隣の学校や保育所からは子供さんとの交流の機会も持たしてもらっている。防災訓練時には消防署から職員の派遣を依頼し実施している。	○	併設事業所であるデイサービスでは近隣の中学校より「トライやるウイーク」を受け入れたり、高校からは就業体験の受け入れを行なっている。グループホームでも要望があれば応えて行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	以前、長期的な入院後、当法人の特養でショートサービスを利用してもらった後、当施設へ戻った入居者があり、その際には特養のケアマネやスタッフとの連絡調整を行なった。	○	当法人内の事業所との連絡調整を密にすると共に、他事業所との連絡調整も行えるよう連携を図って行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議以外での地域包括センターとの連携は図れていないのが現状である。		運営推進会議の開催をはじめ、今後地域包括支援センターとの連携を図って行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の病院への診察を継続している。定期的な受診に加え、状態の変化などが見られた際には随時の受診を行なっている。協力医療機関へ病院を代わる際には、家族と相談し納得が得られてから行なっている。	○	医療機関との連携を図り、グループホームでの暮らしの可能性を広げて行きたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関することも協力医療機関の医師やかかりつけ医に相談しアドバイス受けることがある。	○	地域の医療体制上、認知症の専門医と直接的な連携は図りにくいところにあるが、主治医の診察を要に必要に応じて専門医等へつなげて行きたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護員を配置し、入居者の健康状態の把握に努め、定期の受診等で医療機関へつなげている。また、２ヶ月に１度歯科衛生士による「口腔相談」を実施しており、口腔衛生についてのアドバイスや介助に対する助言もしてもらっている。	○	医療面や口腔機能面での更なる連携を図りながら、日常の健康管理に努めたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院に至ったときには、随時病院へ出向き状態の把握に努め、病院関係者からも情報を提供してもらい、退院後の対応についても検討している。	○	退院後、スムーズに対応できるよ都度の状態について把握に努めて行きたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点で終末ケアに対応できる体制は整っていないが、本人や家族の意向を尊重させてもらった上で、重度化された場合でも可能な限り対応していけるような体制を作りたいと考えている。	○	心身の状態が重度化したことを理由に当ホームを出なくてはならないような「通過施設」にはしたくない。重度化しても可能な限り馴染みの生活を継続できるように、まずは全職員がその思いを共有し、対応できる体制や技術・知識の向上を図って行きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	可能な限り馴染みの生活が継続できるよう、事業所として「できること」の幅を広げて行きたいと考える。そのひとつに今年度より看護員を配置し、専門的な視点から入居者の健康状態の把握を図ったところにある。	○	可能な限りグループホームでの生活が継続できる体制の確立に向け、課題の改善や工夫のなかで課題を克服して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退居される際には、本人、家族や担当ケアマネと情報交換しながら、入居の時期やタイミングを検討している。	○	各関係機関と情報間を密に対応することで、入退居時の不安や混乱を防いで行きたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いについては、人生の先輩として入居者を敬う言葉使いの徹底を図るところにある。言葉の乱れが態度の乱れにつながらないよう、常に留意しあっている。また、居室は一軒の家として出入室の際には挨拶をするようにしている。	○	常に尊敬の念を持った言葉使いに留意して行きたい。また、言葉使いについては乱れやすい面を持っていることを自覚し、言葉の乱れが態度の乱れにならないように職員間で注意し合って行きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の思いや希望が気兼ねや遠慮により表出できないことがないよう、職員は訴えられやすい存在でなくてはならない。日々の関わりの中で信頼関係を築き「あてになる職員」を目指している。ひとり一人の認知症の状態に応じた説明や関わりの中で自己決定ができるよう対応したり、時には入居者の代弁者として対応することもある。	○	職員が入居者の代弁者となり対応する場合、入居者の人権に充分配慮し失礼のない対応に努めて行きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課は設定しておらず、その日、その時の入居者の心身の状況や希望を捉えたうえでの過ごし方に配慮している。生活の主体は入居者であることを常に確認し合っている。	○	入居者からの希望や訴えを待つばかりではなく、入居者の主体性を引き出せる関わりにも努めたい。運動不足の方には散歩を勧める等、その気になれる支援も大切にしていきたい。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	当施設の隣に理容室があり、男性の入居者はそこで散髪を行なっている。また、女性の入居者の近所の美容室へ出掛けカットや毛染めを行なっている。服装に関しては乱れや汚れがないよう気をつけている。	○	美容室へ出掛けることが困難となっている入居者は美容師の方に来てもらいカットしてもらっている。美容室への外出が可能な方は、できるかぎり外出してもらえるよう支援していきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「食事」の中にも、買い出し・調理・食す・後片付け等様々な行程のなかで入居者の状態に応じて取り組める部分を勧め行なっており、後片付けが役割となっている入居者もある。	○	食事の献立には野菜や旬のものを多く取り入れ、昔懐かしいメニューなども増やして行きたい。
55	○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ひとり一人の嗜好を把握し個別対応に努めている。個人で菓子や果物等を持っておられる方もあり、古くならないよう職員が確認をさせてもらうこともある。	○	個々の嗜好を大切にし、個別の対応に努めて行きたい。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	当法人のケア理念に「排泄の自立」を掲げている。排泄行為は人間の尊厳に関わる部分であることを充分に認識した上で、可能な限り排泄の自立が叶うよう取り組んでいる。ひとり一人の排泄パターンを把握するため、チェック表に記録している。	○	可能な限りトイレで座って排泄が望めることを目標にしながら、排泄の自立には常にこだわって行きたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴のあり方は、１日おきに入浴することを基本としているが。毎日を希望する方は毎日入浴をされている方もある。	○	入浴の時間帯については１５時３０分からとなっているが、それ以外の時間帯での入浴対応の可能性についても考えて行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中を活動的に過ごしてもらうことで夜間の安眠につながるよう日中には作業等や外出等を勧め、できるだけ体を動かす機会を多く作っている。また、日中においても、それぞれの体力に応じて、昼食後等には横になれるよう対応している。	○	夜間の不眠が見られた場合でも、可能限り眠剤は使用しないようにと考えている。日中を活動的に過ごせるよう支援したり、認知症からの不安混乱を原因とする不眠の場合は、訴えを充分に聞かせてもらいながら対応することで安心を図り、安眠につなげて行きたい。
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や食後の後片付けが役割となっている方があり、役割があることで自身の存在感を感じておられるようである。また、地域の行事への積極的な参加や散歩やドライブ等の外出の機会を多く持っている。	○	自身の役割があることで、やりがいにもなり自身の存在を感じることができると考える。それぞれの方に役割を見い出す関わりを続けると共に、ねぎらいの言葉や感謝の言葉をかけて継続できるよう支援して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については事務所で管理している方が多い。金銭管理の代行をしている方には４半期毎に出納状況を報告している。また、金銭を預っている方であっても、外出の際には金銭を手渡し、そのお金で買い物等を行なえるように支援している。	○	自分のお金で自分の好きなものを購入できることも、ＱＯＬの向上と考える。機会を見ては勧めて行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域での催し物等へは積極的に出掛け参加している。また、畑での農作業に親しんでこられた方には畑での作業を勧めるなど、外で過ごす時間を多く持っている。	○	季節によって暑さや寒さから、外出のしやすい時期や外出しにくい時もみられるが、対応の工夫の中で今以上に外へ出る機会を多く持って行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の催しである、花見、夏祭り、紅葉見物や芝居見物や外食などを機会を見ては、希望を伺いながら出掛けている。また、家族と共に外出される方もある。	○	都度、希望を伺いながら対応すると共に、外出への意欲が沸くような勧め方も支援のひとつとして努力していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等、希望を伺いながら勧めているが、電話や手紙の希望を伺う回数は少ない。	○	電話や手紙の希望を待つだけではなく、それらを勧める話しをしていくことで、新たなニーズを捉えて対応していけるようにしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者はいつでも訪問いただける体制にある。家族の訪問時には居室にてゆっくりと過ごしていただけるよう配慮し、日頃の暮らしの様子についても伝えている。また職員は訪問者に対しては気持ちの良い挨拶で迎えることで、気軽に足を運んでもらえるよう努めている。	○	訪問される方々には気持ちよく過ごしていただけるよう配慮することで気軽に立ち寄れるような雰囲気づくりに努めて行きたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人間介護に身体拘束は存在しないものと考え、拘束のない介護の実践している。職員研修等で身体拘束ついて取り上げ、人権侵害であることの理解を深める取り組みを行なっている。	○	身体拘束は人権侵害であることの理解を深めるていくため、繰り返し学習し人権感覚を磨いていく努力を怠らないようにしたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は玄関・エレベーターの施錠しているが、それ以外の時間帯は施錠していない。日中は開放しており自らの思いの中で外へ出て行こうとされる方には、鍵をかけるのではなく職員が行動を共にして対応している。また、鍵をかけて行動を抑制することで余計に不穏、興奮等につながることを職員間で理解している。	○	鍵をかけないのが当たり前として対応しているところであるが、職員は入居者の動きを常に把握しておかなくてはならない役割にある。常に目配りし、入居者の位置関係を把握すると共に、目の届きにくい場合においても、今どこに、誰が位置しているのかを頭の中で把握できるよう、心のアンテナを張るように努めていきたい。
67	○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は常に職員が入居者の状態を把握できるよう、職員間での連携を図り、時には別ユニットの応援も得ながら対応している。夜間は排泄介助に関わりながら状態把握したり、居室へ伺いながら確認をしているが、施錠される方の確認については居室へ伺ってまでの確認は行っていない状況にある。	○	日中からの状態を日勤者から引継ぎ、夜間の状態把握に努めて行きたい。また、夜間に施錠される方への対応について検討していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物はキッチンの目に触れない位置に保管しており、現時点で使われる入居者はないがライターなどの火の元は職員室にて保管している。	○	調理の際には、刃物の認識が得られる方やそうでない方もおられる為、使用する際の置き場所に充分留意して行きたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息等、緊急時の対応については、マニュアルを整備しており、研修でも取り上げている。薬はひとり一人、服用時間ごとに分けてケースに入れており誤薬を防いでいる。	○	マニュアルは整備しているが、繰り返し確認していくことで、素早く対応できるようにしておきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応について、マニュアルを整備しており、事故の発生時には事故に至った経緯を再確認し、原因を分析することで再発予防に向け取り組んでいる。吸引機や酸素の使用方法について研修で取り上げ実施している。	○	緊急時でも落ち着いて対応できるよう、繰り返し確認し、定期的な訓練も実施したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に２度、消防署から職員を派遣していただき、防災訓練を実施している。昼夜を想定した訓練を実施しており、避難訓練は参加が可能な入居者には参加してもらっている。	○	火災を想定した訓練を実施しているが、その他の災害時の訓練は行っていないため、検討して行きたい。また、近隣との協力関係を築きあげたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	体調の変化があった際には、家族へ連絡し経緯について説明をしている。また、月に1度生活の様子を文書で伝えており、心身機能の変化についても家族と共有しながら、今後の対応についても相談している。	○	暮らしの場として、馴染みの関係、環境での生活が継続できるよう本人、家族の意向も伺いながら、都度、話し合いの場を持って行きたい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の変化や気づきは毎日のミーティングの場にて、職員間で情報を共有しており、内容について連絡帳に記録することでミーティングに参加していない職員も把握できるようにしている。また、週に約２回、看護員を配置し専門的視点から、体調面を把握するようにしている。	○	状態変化を見逃さないようにし、状態変化が見られた際には、受診へつなげるなど、早期の対応を図ることで状態が悪化しないようにしていきたい。
74	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬の内容については、ファイルに綴じていつでも確認できるようにしている。特に服薬の変更や追加があれば状態の変化に留意し様子を見るようにしている。	○	内服薬等の変更があった際には、全身状態の把握に努め、変化が見られれば医師へつなげていくようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状況を把握している。また、外出することで運動の機会を持ったり、施設内でも体操の機会を持っている。	○	食事時には水分を充分に摂ってもらうよう関わっている。食事内容について野菜を多く取り入れ、繊維質の多い食事に配慮して行きたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後までは行なっていないが、夕食後には義歯洗浄、歯磨き等の関わりを持っている。また、２ヶ月に１度、歯科衛生士の派遣を受け口腔内の検診や介助時のアドバイス等をしてもらっている。	○	歯科衛生士の助言、アドバイス等を活かしていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量については常に把握に努めていおり、摂取量については日誌等の記録へ残すようにしている。食事量が減少してきた方には、高カロリーのゼリー等を勧めることもある。	○	栄養の偏りのないメニューに配慮して行きたい。ひとり一人の状態をしっかりと把握し、その方に応じた食事提供が行なえるよう努めて行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染症対応マニュアルを作成しており、発生時、または予防として対応に努めている。	○	ノロウイルスやインフルエンザの流行時期には、予防に努めると共に体調の変化に留意し、変化、サインを見逃さないようにしたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週に１度（水曜日）は調理器具や食器類をハイターにて消毒を行い、冷蔵庫の掃除、整理を実施している。またノロウイルスの流行時や必要に応じて消毒の回数を増やし対応している。食材は使い切るようにし、買い出しも２、３日分の食材を購入するようにし、新鮮なものを提供できるように努めている。	○	居室に食物を置かれている方もあるので、失礼にならないよう配慮しながら居室の確認も忘れないようにしたい。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に入居者が植えた花を飾るなど、親しみやすい空間となるよう配慮している。靴の履き替えがしやすいよう椅子を設置している。エレベーター入り口にも花を飾り対応している。	○	季節に合った花を植え、季節感を感じていただけるように配慮して行きたい。灯りに虫がよって汚れることがあるため、都度の清掃を行なって行きたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	構造上、リビングキッチンには西日が当たりやすく、光を多く取り入れることができる。必要以上の光とならないように、カーテンで調整をしている。食事中には食堂とローカとの間にのれんを下ろし、食事へ集中できる空間を作っている。季節の花や植物を配置し、季節感を感じられるよう配慮している。	○	季節の催しや行事に関連した装飾や、花や植物を配置し季節感を感じられるよう努めていきたい。職員の関わりも入居者にとっての環境であり、職員の言動、会話のトーン、仕草など失礼のないよう留意して行きたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんが集う場となっている食堂から少し離れた位置に、数人で過ごせるよう畳台を配置している。また、共用のスペースとして畳の部屋があり、時には横になって休まれる方もある。	○	畳の部屋が充分に活用できていないところもあるため工夫して行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはこれまで使い慣れた品々を持ち込んでもらってよいことを家族に伝えており、仏壇やコタツ、テレビ、冷蔵庫等持ち込んでおられる入居者もある。	○	入居者によっては持ち込まれるものが少ない方もあり、家族との相談しながら工夫して行きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除を行なう際には換気を行ない、空気の入れ替えを行なっている。また、室温計、湿度計を設置し空調による温度、湿度調整を行っている。使用後の紙オシメ等は早目に処分し、臭いが出ないように対応している。	○	冬場には加湿器を使用しているが、水の補充を含め確実な使用を徹底していきたい。
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカや浴室、トイレ内には手摺を設置しており、それぞれの行為を起こしやすい環境つくりに配慮している。また、ローカ中央には腰を下ろせる空間を作っている。エレベーター前には椅子を設置し、乗り降りの際には使用してもらっている。	○	浴槽への出入りがしにくくなっている入居者もあるため、シャワーチェアを活用してスムーズな行為ができるよう対応をしていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には表札を設置しており、場所的失見当による混乱を防ぐよう配慮している。トイレの目印も見えやすい位置に設置している。洗濯後の自分の衣類が心配になる方には、自室に洗濯物を干すことで、混乱や不安を取り除くよう対応している。	○	入居者の心身の状況にも変化が見られるところである。その都度の状態の応じた対応のあり方を検討して行きたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天候の良い日には玄関先のスペースにて外気浴を行なえるよう、長いすを用意している。施設近くには畑を作っており、畑での作業に熱心に取り組まれる方もある。	○	畑への道が整備されいない状況であるため工夫して行きたい。出て見たいと思えるよう、意欲を引き出す関わりにも努めて行きたい。

（　　部分は第三者評価との共通評価項目です　）

Ⅴ．サービスの成果に関する項目　（大空）

項　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない	個を知る努力を重ねていくことで,それぞれの願いや意向を知るところにある。日ごろの関りから築き上げた信頼関係を基盤に入居者の思いに少しでも近づくよう努力をしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	日課に追われることなく、それぞれの生活ペースにあわせて、のんびりと過ごす時間も持てている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	それぞれの生活のペースで過ごされている。人中で過ごされる方や時には一人で過ごされる方もあるが、一人で閉じこもりがちになる方には、気の合う入居者と買い物や外出へ誘うなどして対応している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	職員と馴染みの関係も築けてきているようであり、笑顔も多く見られている。認知症により不穏になる方もあるが、馴染みの関係が安心感につながり、落ち着いていただけるように取り組んでいる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	希望を伺えば可能な限り出掛けていただくように対応している。入居者の心身の状態によって行きたいと思われるところへ出掛けることが困難な場合もあり、散歩や外気浴等での対応になることもある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	定期受診にて医師に診てもらい、薬の処方等をしてもらっており、また状態の変化が見られた際には随時早めの受診につなげることで対応している。非常勤だが看護員も配置し日常の健康状態の把握に努めている。
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	認知症により、精神的に落ち着かれないこともあるが、個別でじっくりと関わる時間を持つことで安心されることも多く見られている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない	家族が遠方におられる入居者もあることから、訪問の機会は入居者によって異なるが、訪問時には積極的に生活の様子を伝え、家族との関係作りに努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	入居者にもよるが、家族や親戚の訪問は定期的に見られている。知人や友人または地域の方の訪問もあるが、比較的少ないのが現状である。

項　　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	開催の回数が少ないことから、運営推進会議を通しての広がりは余り望めていない。
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない	それぞれで介護の仕事にやりがいをもって頑張っている。介護の仕事は努力した成果がすぐに目に見える形では現れにくこともあるため、忍耐を要する時もあるが、乗り越えた時の達成感を糧に努力して行きたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	入居者同士での馴染みの関係や職員や環境との馴染みの関係も築けてきているようである。入居者間でのトラブルが発生してしまうこともあるが、職員が間に入って対応するように努めている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない	毎月メッセージカードを送り、生活の様子を伝える中で満足していただけいると思うが、家族の意向を伺う機会も少ないところであり、今後そのような機会を増やして行きたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当施設は平成１６年４月１日に開設し今に至る。この間、当法人の基本理念である「人権の保障」「ノーマライゼーションの確立」「生きがいの創造」をケアの目標、判断基準とし取り組んできた。基本理念に裏打ちされたケアの実践に努め、入居者一人ひとりが主体的に生活を送ることができるよう、時に見守り、時に励ましながら共に行動する中で、主体性を引き出せるようその関わりに努めている。

ケアの実践においては「その人を知る」ことを大切に関わっている。個を知る努力は「その人らしさ」の輝きを更に高める重要な関わりであることを肝に銘じ、個々が主体的に逞しく生きていくことのへの関わりに努めている。

日々の暮らしは、刺激ある活動的な時間を過ごせるよう努めており、暮らしの中に「心が躍る一瞬一瞬」が存在するような支援を目標としている。また、認知症の進行から徐々に心身の状態に変化を見る方もあるが、それぞれの状態に応じたケアのあり方を追求しながら、むらおかの空での暮らしの可能性を広げられるよう、その関わりに努めている。